

# AI時代の宗教と宗教学

東京大学大学院人文社会系研究科

藤原聖子

# AIと宗教・宗教学の関係

## 1. AIの「技術」と宗教学の関係

e.g. デジタル・ヒューマニティーズの促進、学知の蓄積のオープンソース化

## 2. AI「倫理」と宗教

e.g. 人間の知能を超える(AI搭載の)ロボットを作ることの是非

→ 各宗教からの応答を、AI開発にフィードバック

→ AIに私たちはどう関わっていくかについての社会での議論に反映させる

## 3. 文明論的なAI論への寄与

特定の宗教伝統がAIの開発・受容に影響を及ぼしているか

## 4. 「AI時代の宗教」論

AIの著しい進化は宗教にどのような影響を与えるか

経験科学



巨視的・総合的考察

# 文明論的な「宗教への還元論」の問題

## アルアルな「宗教への還元論」

- ・ シンギュラリティ論はキリスト教の伝統から生まれたものだ

確かに「AIが自律的に判断できるようになり、進化すると、神のようになる。そうなったらすごい／大変だ」論の〈神〉のイメージは〈全知全能の唯一神〉的。

しかし、2つのものが似ているからといって、因果関係があるとは言えない。

反例:「人間と機械は本質的に別々で、機械が進化しても、〈魂(=自律性、主体性)〉は宿らない。神がそれを宿らせない限りは」もキリスト教の考え

- ・ 日本人が人型ロボットを好むのはアニミズムの伝統があるからだ

ヨーロッパ宗教学会で アンドロイド観音「マインダー」について研究発表

ヨーロッパ人参加者「私は、マインダーを怖いとしか感じない。これを崇拝対象にできるなんて、日本はやっぱりアニミズムの国だね」 ???

自分にとって違和感あるものを説明づけるために、安易に宗教伝統が持ち出されているのでは

# AI時代に宗教はどうなる？

「AIに僧侶や神父の代わりはできるか」論

例: ブッダ・ボット<sup>+</sup> (経典に基づきアドバイスをする、宗教カウンセラーとしてのAI)

「できない」派: 「AIには心(あるいは魂)がないから」



「AIは心(意識・生命 etc.)を持てるのか？」論の不毛さ



社会の人々が、どのような時に、AIには心があるとみなすのかを(宗教性／信仰との相関の有無を)  
経験科学的に調査・研究する方が意義がある

# AI時代の「救済」

AIが発達していくと、人々の「救済」観、「幸せ」観はどうなる？

救済観を軸にした、M・ウェーバーの宗教類型：「現世肯定的」「現世否定・拒否的」

→R・ベラー →日本の新宗教研究

天理教、金光教、創価学会、立正佼成会、モルモン教、クリスチャンサイエンス etc.

近代以前

伝統的キリスト教や仏教の救済観：現世否定的・・・来世での救済

19世紀～

新宗教の救済観：現世肯定的・・・「貧・病・争」の現世内での解決

＋ 共同体からの「個人」の析出

1970頃～

ニューエイジ・スピリチュアル文化、新・新宗教：「自分探し」「自己実現」の追求

# AI時代の「救済」

新宗教・・・「貧・病・争」の解決 + 「個人」の析出



ニューエイジ・スピリチュアル文化、新・新宗教・・・「自分探し」「自己実現」の追求



21Cの宗教的志向性

“そのまま” 承認・共感

“超人”になる(能力+不老不死)→ポスト(トランス)・ヒューマン

→ 世俗的な団体による試み 例:humanity+

→ 宗教団体による試み

“自己”を動かす(複数的・階層的・フレキシブルな自我)

→ポスト・ヒューマン論

人間をであることを半ば止めることに救済を見いだす人も

→人間の尊厳とは何か？

# AI時代の「救済」

- AIによって最適化された社会での「救済」は？

人間より賢いAIが、個々人の人生にとっての、さらに社会のにとっての最適な選択肢を常に提供できるようになる社会

「“カルト”による被害」はなくなるだろうけれども、それは新しい全体主義社会

各人が、自分の好きなように生きている(と思い込んでいる／と思わされている)

「失敗しても構わないから自由にやらせてくれ！」

→ 隠遁生活、自給自足のコミュニン

# AI時代の「霊」と「肉」

- 「すべてのもののインターネット (IoTが拡大し、モノだけでなく人間もネットワークにつなげられる状態)」、「デジタル・ネイチャー」(落合陽一)的世界・世界観が宗教史上にもつ意味  
データ/アルゴリズムとしての人間がデータの大海に中に流れ出す・・・主体⇔客体の消滅

伝統的宗教・スピリチュアリティの心身観: 救済を目ざし、〈身体〉というくびきと格闘



AI時代の心身

身体を捨象し、脳内環境の調整により、持続的な幸福感を物理的に達成する  
心／体、霊／肉、精神／物質、人間／機械の境界消失がもたらすこと

例: デジタルヒューマンは「幽体」(落合陽一)


人間が情報に変換され、時間や空間の障壁を超えて存在する現象

ポスト・ヒューマンの時代は、ポスト・スピリチュアルの時代



# まとめ： AI時代の宗教学の課題

宗教  
は？



- 幸せとは何か？ そもそも幸せは必要なのか？  
AIのお蔭で衣食住が確保され、安全が保障され、これといった困りごとがない状態か  
失敗を恐れず自分で選択することこそ人間の尊厳であり、それ抜きの幸福は空疎か
- 宗教はどちら側につくか／牽引するかをとらえるには、既存の意味での「宗教」や「スピリチュアリティ」の枠を超えて、時代精神を大きくとらえ、哲学的に考察するとともに、その考察を、AIについて実際に人々がどう考え、感じているかについての経験科学的調査に結びつけることが必要